

吉田みきと

昭和44年3月いわき市生まれ。
平三小・平三中・磐城高校を経て、
シシガボール国立大学修士課程
(MBA)卒。公認会計士として、中央
監査法人入社。世界4大会計事務所
であるプライスウォーターハウス
コーパスにて、上場企業の経営ノウ

ハウを学ぶ。シシガボールで日系企
業進出を支援。帰国後、東日本震災
を天命ととらえ、ふるさといわきに
戻る。
現在、数字が読めるいわき市議会議
員(2期目)として、活動中。

いわきが
「選ばれるまち」
になるために。

公共事業の財源は、市民ひとびとが
納めた税金です。それを将来役に立つ
“資産”にしていきたい。



～任期満了に伴い、いわき市議会議員の職を卒業～

8年間、ご支援をいただき、誠にありがとうございました。

いわき市議会議員となった理由



大学卒業後、東京の金融業界で公認会計士として、ビジネスの最前線で勤務していました。2011年の東日本大震災で、与えられた命が有限かつ貴重なものであることに気付かされました。東日本大震災からの復興に何らかの形で貢献したいと考え、それまでの職を辞して、2012年の秋にいわき市議会議員に立候補しました。ふるさとのいわきから離れ20年以上が経っており、ほとんど無名だったにもかかわらず、2000名を超える方々の信頼をいただき、活動してこれたことに感謝を申し上げます。
私の活動の原点は、**日本国民の税金である復興予算は、将来世代に役に立つ資産を残すために使うべきということ**。スローガンは「子供にツケをまわさない」。連綿と続いてきた先人たちの活動に感謝し、次世代へバトンを渡していくことでした。
まちづくりには、一定数のよそ者・若者・バカ者の関与が必要と言われています。東京からいわきにUターンしてきた私の役割として、外部視点から市政に大胆な提案をしてきました。

いわき市議会議員を卒業する理由

数字が読める地方議員として活動し、2020年9月に2回目の任期満了を迎えました。東日本大震災の復興創生期間も終わり、立候補当初の目的である、経済的な復興事業は達成されつつあり、ひとつの区切りと考えています。一方で私自身、この8年間の間に、いわきの環境に慣れてきたこともあり、よそ者でなくなってきたのではないかと自問してきました。その間に40才代から50才代になり、若者とも言えなくなってきました。そして、これまでいろいろな経験をさせていただいたことで、必ずしも猪突猛進なバカ者とも言えなくなってきました。

市議の職務は、自らの自治体の役割や限界を知る上で得がたい職だと肌身で感じていますので、いろいろな立場の方に経験してほしいと思っています。議会は「男性・中年・多選」でない人で運営したほうが良いと考えていたなかで、今回のいわき市議選には、複数の若者・女性の立候補が見込まれています。**多様なバックグラウンドを持った方々が議員になることで議会、そして行政が活性化していくことを願い、今後の彼らの活動を応援したいと、心より思っています。**



みきと通信

市政だより Vol.10

発行者：吉田みきと後援会

吉田みきと公式サイト <http://officey.biz/>

〒970-8026

福島県いわき市平字愛谷町2-1-2

後援会
事務所

☎ 0246-88-7855

✉ mail@officey.biz



☎ 0246-88-7855

「みきと通信」の感想など

お気軽に市民の皆さまの声を聞かせください。



吉田みきとが提案し、実現してきたこと。

いわき市の医師不足解消

課題
いわき市で初めて、厚生労働省の医師・歯科医師・薬剤師調査データを引用し、いわき市の医師不足の実態を公表しました。

提案
医師不足を解消すべく、市民活動として「いわきの医師を応援するお姉さんの会」(代表:宮野由美子氏)を立ち上げました。多忙なドクターを手料理でもてなし、感謝の意を伝え、医療現場の実情を学んできました。

実現
これまで市内医師との交流や勉強会を20回開催し、医師招聘に貢献してきました。

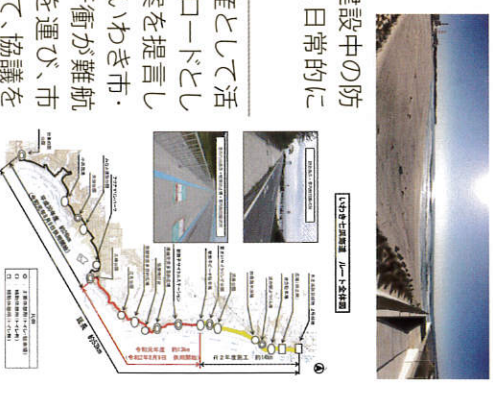


いわき七浜海道

課題
東日本大震災を踏まえ、建設中の防潮堤は大津波対策用で、日常的に無用のものでした。

提案
これを将来役に立つ資産として活用するため、サイクリングロードとして市民へ一般開放する案を提言しました。一方、実施主体がいわき市・福島県・国にまたがり、折衝が難航しました。何度も県に足を運び、市に連絡調整会議を設置して、協議を進めてもらいました。

実現
2020年度中に、全長53kmの「いわき七浜海道」として完成予定です。



(仮称)磐城平城・城跡公園

課題
いわき市で郷土愛不足を感じました。

提案
磐城平城の城跡公園構想の提案をし、所有者の案内で、封鎖されていた本丸跡地を現地調査しました。かつて昭和40年代に同地にお城再建の機運があり、失敗に終わっていたことから、関係者の同意を得るのは容易ではありませんでした。JRいわき駅長・市土木部長・都市建設部長らを現地案内し、その立地の希少性・有用性を知らしてもらいました。

実現
その後地権者との交渉が進み、2018年からは市の公有地となり、2020年度に都市公園整備事業として実施設計。2021年度には城跡公園として一般公開予定です。



いわきの先人を顕彰するための副読本

課題
いわきの郷土愛不足の一因は先人を顕彰する機会が少なかったことでした。

提案
郷土の偉人教育副読本の制作を提言しました。郷土の先人顕彰をしている金沢市を自ら視察・調査し、その協力を得て関連資料を、市教育委員会に提供しました。

実現
市教育委員会は、郷土の偉人である沢村勘兵衛・片寄平蔵・安藤信正・星一・国府田敬三郎・吉野せい・中村豊・草野心平・大河内一郎ら9名の生き様を伝える副読本「いわきの先人」を制作し、市内の小学5・6年生全員に配布しており、これを今後も継続していく予定です。



骨髄バンクドナー支援助成制度

課題
白血病を治療するために、ドナーから骨髄の提供を受ける方法がありました。ドナーの金銭的負担が大きくとドナー適任者が見つけづらくても骨髄移植に至らないケースがありました。

提案
いわき市にはそれまで、白血病治療のための骨髄バンクドナー支援助成制度がなかったため、この助成制度の新規制定を提案しました。



実現
市長あてに所属会派からの要望書を提出し、その結果、2017年からいわき市でドナー支援助成制度が開始されました。

ブログによる情報発信

課題
議員活動をしていく中で、議会や委員会、さらには地域行事等への参加を通じて、さまざまな情報を得ることができました。これらの情報は、残念ながら一般市民の方々が触れる機会がありませんでした。

提案
一般に情報共有するために、市議着任と同時に「ほほ毎日ブログ」を新規開設しました。

実現
硬軟織り交ぜて、8年間で3,000件を超える投稿で情報発信に努めました。

